

# 農機具の導入支援へ

担い手の集約や大規模化、複合化を図る上で低コスト化、省力化が課題となる中、JAグループ山形は、これら技術の普及や農機具の導入支援に力を入れる。

水稻では、密苗（高密度は種田）移植や直播（ちよくは）などの栽培技術が今年も注目を集めた。地域・担い手サポートセンターは現場を回り、生産者の声を聞くなどして効果などの確認作業を進めている。

同センターの小池清之監理役は、新庄市萩野の早坂忠一さん（68）方を訪ねた。早坂さんは昨年10月に

## 水稻栽培や草刈りの省力化

足の骨を折り、今年1月まで入院したのを機に、初めて密苗栽培に切り替えた。既存の田植え機のアタッチメントを密苗用に交換し、「つや姫」を除く「はえぬき」とヒメノモチ約6糀で1坪（3・3平方㍍）60～70株植えで取り組んだ。

結果、苗箱は半分で足り、育苗培土や農薬、肥料なども半分の量で済んだ。育苗ハウスも1棟で間に合つた。早坂さんは「来年は50株植えに近づけ、苗箱の数をもっと減らしたい。春作業の省力化とコスト低減に向け、密苗をぜひ普及させてほしい」と話した。

一方、湛水（たんすい）や乾田直播栽培も、「つや姫」や「雪若丸」、大区画での実証試験が進んでいる。県によると、県内の直播面積は約2600㌶。

### 地域 担い手 サポ・センだより

### J Aグループ山形

複合経営や規模拡大、さらにはJAグループが目指す農業所得増大、農業生産援は大きな力になる。



今年行われたJA鶴岡の密苗実証試験。低成本、省力化に注目が集まる